

平成 26 年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は、将来に向けての革新の第一歩として位置付けて実施した九品寺キャンパス再開発事業が平成 25 年 3 月に完了し、創立 125 周年となった昨年度をひとつの節目として新たな飛躍の時を迎えています。

その節目の年に学園の目指す将来像を自ら描き明らかにし、その達成に向けた中長期の行動指針を示すものとして「長期ビジョン（将来像）と中長期行動計画」をスタートさせました。

今年度は長期ビジョンと中長期行動計画の 2 年目を迎えますが、女子総合学園としての利点を生かす体制づくりを進めながら、建学の精神を基本に「特色ある教育の質の向上」と「地域連携の強化」に取り組んでまいります。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

昨年度は、教育内容の改革を推進するために欠かせない財政基盤の確立に向けて、教育研究に関わる分野以外での支出について、その費用対効果を再検証しながら見直しを進めたことで、支出抑制による収支の改善が見られました。九品寺再開発による支出負担が無くなる今年度は、安定的財務基盤の確立のために経費節減など財務体質の強化をさらに進めてまいります。一方で、人事制度改革面では、人事評価制度の定着と適正運用のための評価者訓練等を実施し、新たに自己申告制度も開始しましたが、これらについては緒に就いたばかりであり、今年度は職員のレベルアップも含め一層の内容充実に努めてまいります。

学生・生徒の確保にあたって、学園広報の一元化を図り、実施内容を見直し新しい取り組みにも着手しましたが、今年度はさらに広報戦略の明確化と広報予算の有効活用を図ってまいります。また、学園の組織運営の機能強化を推進するために、常勤理事会での意思決定の明確化や迅速化、事務部門会議での実施施策の検討及び周知等について引き続き実行していくことといたします。

地域との連携強化のために、学外へ向けた図書館の一般開放や学園諸施設の貸出の他、初の試みとしてホームカミングデイ等イベントを行いました。今後とも地域からの要請を的確に把握し、ニーズに呼応する施策を検討してまいります。

(1) 安定的財政基盤の確立

重点施策	具体策
1. 収支の黒字化と安定的な施設設備資金積立の実現	
(1) 収入支出の太宗を占める入学者人員及び	① 各学校及び学部学科の学生生徒募集状況の分析

教職員数を踏まえた適正人員モデルの構築と実施	② 社会のニーズを勘案したカリキュラムの検討と設置基準を満たす教職員の適正な配置
(2) 部門別採算を重視した帰属収支改善策の策定と実施	③ 保育所設置のための人員計画作成と具体的準備 ④ 事務職員に係る事務量と適正人員の検証
(3) 財務指標に基づく予算編成及び予算決算の緻密な分析による比較検討と実施	① 平成 25 年度決算による部門別採算の内容分析 ② 定員割れ部門の入学定員確保策の検討 ③ 支出超過部門における支出抑制策の検討
(4) 収入の多様性を図るための新たな財源確保（外部資金研究費や寄附金など）	① 平成 27 年度からの新会計基準による 25 年度決算と 26 年度予算の試算試行 ② 平成 27 年度予算編成作業への早期着手 ③ 学校法人会計システムの各部門担当課への導入 ④ 予算管理の実態調査と管理体制の構築
(5) 遊休不動産の処分を含めた所有不動産等の活用方法の検討	① 教職員の連携による科研費等外部資金獲得のための情報収集と獲得策の検討 ② 125 周年記念奨学寄附金募集の反復及び継続的活動の実施
	① 校地以外の遊休不動産売却方法の探索 ② 校地内の用地利用の見直し

(2) 人事制度の改革

重点施策	具体策
1. 人事制度の確立と人材育成の仕組みづくりの実施	
(1) 人事評価制度の定着と適正運用による昇給昇格への反映	① 考課者訓練等による評価の適正化 ② 適正評価のための制度改善への継続的取組 ③ 評価基準の内容検討 ④ 中高教員及び事務職員の昇格基準規程の制定と運用開始
(2) 計画的な教職員採用と適材適所の配属及び互換性向上のための配置転換	① 自己申告書の活用による退職希望者の早期把握と採用計画への反映 ② 人事評価制度を活用した人員配置 ③ 互換性向上のための人事異動の実施
(3) 人事情報システムの構築と職員の職能別・階層別研修などによる能力向上・育成プログラムの策定	① 写真付教職員名簿の作成等、人事情報及びシステムの内容充実 ② 職員研修充実のため私大協、日短協、コンソー

(4) 勤務時間管理を含めた職場環境の改善	シアム研修への参加 ① 平成25年度の有給休暇取得状況や各業務の実態把握 ② 業務内容の見直しによる事務の簡素化 ③ ネットワークの構築と共有ファイルを活用した重複業務の削減 ④ 業務分担見直しによる協力体制構築
-----------------------	--

(3) 組織・運営基盤の改革

重点施策	具体策
1. 学園の組織運営機能とガバナンスの強化 (1) 法人統括組織と各学校の管理機能の役割を明確化 (2) 学園広報の一元化と広報戦略の明確化 (3) 外部機関等の認証評価を参考に、PDCAサイクルによる組織運営への反映 (4) 同窓会・後援会・保護者会と各学校・法人との連携強化	① 常勤理事会による意思決定の迅速化と業務遂行の検証の継続 ② 事務部門会議による法人統括組織と各学校の役割分担の明確化と周知の継続 ③ 各委員会の機能強化と意思決定プロセスの確立 ① 学園事務局による学園広報の予算一元管理と執行（入試センターを除く） ② 広報目的の明確化と組織的対応 ③ 学園広報の年間スケジュール管理 ① 平成26年度自己点検評価書の作成 ② 平成25年度自己点検評価実施要領からの自己点検評価シート作成 ③ 中学・高等学校における学校評価の実施 ① 同窓会・後援会・保護者会と、学校・法人との連携によるイベント（ホームカミングデイ等）の実施 ② 同窓会連絡協議会の活用 ③ 125周年奨学寄附金募集活動の支援依頼の継続

(4) キャンパス整備・学修環境の整備

重点施策	具体策
1. 学園キャンパスと学修環境の整備及び地域に開かれた学園の実現	

<p>(1) キャンパス整備計画の策定</p>	<p>① 両キャンパスの中長期的施設設備計画作成作業への着手</p> <p>② 保育所設置のための施設設備計画の作成</p> <p>③ 学生・教職員からの要望事項の吸収と要望対応方法の策定</p> <p>④ 防災のための施設点検と危機管理体制の整備</p>
<p>(2) IT化推進策の策定</p>	<p>① サーバー管理体制の実情把握と見直し</p> <p>② Webページのタイムリーな更新と内容の充実</p> <p>③ 幼稚園のWebページのリニューアル</p>
<p>(3) 法人統括本部と各キャンパス・各学校等管理組織との連携強化</p>	<p>① 予算編成作業における法人部門と各キャンパス・各学校等管理組織の相互理解の推進</p> <p>② 事務部門会議等における情報共有化と部門間の連携強化</p>
<p>(4) 主要駅からの交通手段の見直しと導入</p>	<p>① これまでの実施結果分析と最寄駅から楡木キャンパスへの最適な交通手段の再検討</p>
<p>(5) アリーナ、グランド、図書館等の利用・活用方法の検討</p>	<p>① 諸施設の学外利用を含めた活用方法の検討</p> <p>② 図書館の市民開放結果の検証と活用方法の検討</p>
<p>(6) 寮やセミナーハウス等の利用活用方法の検討と実施</p>	<p>① 奨学制度と関連した如蘭学寮の入居者促進方法の検討</p> <p>② ドーミー熊本寮の居室確保策の検討</p> <p>③ 尚綱学舎の利用状況の分析と今後の利用促進策の策定</p>

2. 尚綱大学・尚綱大学短期大学部

教育内容面では、昨年度大幅に改組した文化言語学部と短期大学部総合生活学科について、今年度はその成果を検証するとともに、グローバル化に対応した海外交流や特色のあるカリキュラムの編成、サークル活動の充実など、一層の教育内容の改革に努めてまいります。

また、昨年度から本格的に始動した高大連携の充実、今まで手薄であった県外学生の確保、同窓会や後援会との連携強化、新たに開始した奨学制度の活用を図りつつ、学修意欲あふれた学生確保に努めてまいります。

さらに、研究面では、尚綱大学・短期大学部の利点を活かした各種センターの設置や運営の充実を図るとともに、地域社会との連携を推進していく仕組みづくりに取組んでまいります。また、地域での保育所開設の要請もあることから、ニーズ調査を踏まえ、今後の幼児教育の教育機関としての在り方も含め、設置の可否について検討していくこととしています。

(1) 教育内容の改革と尚綱らしさの追及

重点施策	具体策
<p>1. 学部、学科の改革による入学定員確保</p> <p>(1) 文化言語学部の改組と検証</p> <p>(2) 総合生活学科の改組と検証</p> <p>2. 新設学部・学科・大学院の検討</p> <p>(1) 受験生のニーズや社会の状況を考慮し、学部・学科・大学院の新設を検討</p> <p>3. キャリア教育の実施と尚綱の教育理念の浸透</p> <p>(1) 建学の精神を盛り込んだカリキュラムの導入</p> <p>4. 幼児教育の改革論議（いわゆる幼保一体化）を踏まえ、今後、保育所や認定こども園などへの参入を計画</p> <p>(1) 保育園や認定こども園新設の研究</p> <p>(2) 子育て研究センターの改組と研究強化</p> <p>5. 東アジアを中心とする大学との提携を推進</p> <p>(1) 東アジア諸国との大学間交流協定締結の推進</p> <p>6. サークル活動の活性化</p> <p>(1) 学生に意見を求め、サークル活動・ボランティア活動の活性化を支援</p> <p>7. 大学・短期大学部において、第三者評価への適切な対応</p>	<p>① 平成 26 年度入試動向の検証</p> <p>② 平成 27 年度入学定員確保に向けての活動</p> <p>① 平成 26 年度入試動向の検証</p> <p>② 平成 27 年度入学定員確保に向けての活動</p> <p>① ニーズを評価した上でWGを組織し、検討継続</p> <p>① 文化言語入門において「建学の精神・尚綱の教育理念」についての授業実施</p> <p>② 基礎セミナーやキャリア教育等において「建学の精神・尚綱の教育理念」について授業実施</p> <p>③ 基礎セミナーやフレッシュャーズセミナー等において「建学の精神・尚綱の教育理念」についての授業を引き続き実施</p> <p>① 保育園や認定こども園について検討を継続し、実施計画作成</p> <p>① 尚綱子育て研究センターの円滑な運営</p> <p>② 子育ての専門領域に関する全学的見地からの研究継続</p> <p>① 韓国の大学との交流協定の締結推進</p> <p>② 中国の大学との交流協定の締結推進</p> <p>① 尚綱ボランティア支援センターの設置</p> <p>② サークル活動等の実態に基づき改善等の検討</p>

(1) 平成 26 年度に大学・短期大学部とも、自己点検評価報告書を作成	① 大学は「平成 26 年度自己点検評価書」、短期大学部は「平成 26 年度自己点検・評価報告書」を作成
--------------------------------------	--

(2) 教育指導力の向上

重点施策	具体策
1. FD活動の一層の充実 (1) 授業改善と授業公開制度の推進	① 新しい授業評価の項目による授業改善アンケートの実施と学生へのフィードバックによる授業改善 ② 授業公開への学外非常勤講師の参加と実施期間延長を検討 ③ 授業公開の推進

(3) 学修意欲あふれる学生の確保

重点施策	具体策
1. 多様化した学生に対処した教育の一層の強化 (1) 基礎的な教育の充実や習熟度別授業の強化	① 入学前スクーリングの実施 ② 基礎セミナー等、導入教育の充実 ③ 習熟度別授業の検証
2. 国家試験の合格率の向上 (1) 国試合格率のさらなる向上	① 1年次からの自主的グループ学習の体制強化 ② 3年次からの国試対策特別講座、及び特別演習（国試対策ドリル）、栄養士実力認定試験対策講座、4年時での国試模擬試験、少人数補講など、国試対策の継続的強化
3. 出前授業、体験的な授業、オープンキャンパス、入試の強化 (1) 高大連携の積極的展開	① 入学前教育の充実 ② 高校への出前授業、大学での授業参観、進学ガイダンス、オープンキャンパスの実施 ③ 尚絅高校との連携事業の実施
(2) 入試広報戦略の強化	① 高校訪問、出前授業、学校説明会等への積極対応

(3) 入試における県外受験地の実施	① 一般入試(第1回)において地方試験会場を鹿児島市と宮崎市に設置
4. 同窓会・後援会との連携推進	
(1) 大学情報の提供と受験者情報の収集	① 同窓会・後援会との連携強化のための尚綱祭・ホームカミングデイの充実 ② 本学出身の中学・高校教員との連携強化

(4) 学生支援活動

重点施策	具体策
1. 奨学金制度、表彰制度の整備 (1) 現行制度の見直し	① 新規程による奨学制度の実施
2. 学生に対する健康相談、心的支援の強化 (1) 学生生活の心身面の支援充実	① 教務委員会と連携した学生支援体制を検討
3. 就職支援の充実 (1) 全学的就職支援体制の強化	① キャリアガイダンスや就職懇談会などの一層の充実
(2) 資格教育を担うエクステンションセンターの設置	① センター設置の有無を含めて実現可能な具体的方策を検討

(5) 研究・指導力向上のための支援

重点施策	具体策
1. 研究費の配分の適正化 (1) 研究費配分方法の見直し	① 研究費予算を効率的に配分する必要があるので、研究実績を基礎とし、より適切な配分を実施
2. 研究センターの新設 (1) 「尚綱子育て研究センター」の運営	① 前年度設置の尚綱子育て研究センターの円滑な運営
(2) 「尚綱食育研究センター」の設置・運営	① 食育の研究推進等をサポートする食育研究センターを設置・運営

(6) 地域連携を視野に入れた教育・研究の推進

重点施策	具体策
1. 地域との教育・研究の推進	

(1) 地域連携の推進・強化	① 県・市町村行政機関や公的機関などとの意見交換会、協議会に積極的に参加し、地域への貢献を強化
	② 大学コンソーシアム熊本の地域創造事業に取り組み、地域の活性化に貢献
	③ 地域社会との連携推進等をサポートする仕組み作りの検討
(2) リカレント教育の充実	① 総合生活学科において介護福祉士受験対策講座などを実施
	② 食物栄養学科において管理栄養士国家試験対策講座を継続実施
	③ 幼児教育学科において保育士や幼稚園教諭を対象とするサマーセミナー等を実施
2. 地域に開かれた研究拠点ということを表明していく	
(1) 講演会、公開講座等の充実	① 「第25回尚綱公開講座」の充実
	② 「第8回尚綱大学文化言語学部公開講座」の充実
	③ 地域や地方公共団体からの講演会、研修会、相談会等に積極的に対応し、地域に貢献
(2) 図書館の地域への開放	① 社会人（地域住民及び公開講座受講生）を対象とした利用の継続実施

3. 尚綱中学・高等学校

昨年度は、授業・学校行事・課外活動・高大連携事業等で教育内容の改革と充実に努め、「尚綱らしさ」を追求し推進しましたが、十分とは言えませんでした。引き続き今年度も国際交流・学力向上・高大連携事業・礼法教育・環境美化推進等に一層取り組むと共に、新たに「ことば教育」「学校評価制度」を導入し、教育内容の充実を図り「尚綱らしさ」のさらなる追及を推進いたします。

学生生徒確保について、昨年度は学園広報担当と連携して広報部を中心に様々な機会を活用して広報活動を展開しました。特に、学校行事や各種会合等での広報活動を徹底すると同時に、小中学校訪問を重点的に実施しました。今年度は、広報活動の企画・戦略及び指導助言の役割を持つ広報活動プロジェクト委員会を設置して広報活動を展開いたします。

九品寺校地の再開発終了を機に、昨年度は部活動等の課外活動において体育館アリーナやテニスコートを使用して、他の小中高校生徒の合同練習会が従来以上に実施できました。また、佐々旗剣道大会・尚綱杯ソフトテニス大会・尚綱コンサート等も開催し、一定の成果を得ました。今年度は、昨年

度立ち上げたボランティア委員会による活動を一層推進いたします。

(1) 教育内容の改革と尚綱らしさの追及

重点施策	具体策
<p>1. グローバル化に即した海外修学旅行・研修・国際交流の推進</p> <p>(1) 海外修学旅行の実施</p> <p>(2) 国際交流の推進</p> <p>(3) 英語教育の推進</p> <p>2. 基礎学力の確立</p> <p>(1) 総合コースの全員課外実施</p> <p>(2) 小論文指導の強化</p> <p>(3) 尚綱塾、尚綱ゼミの充実</p> <p>(4) 自学・自習の習慣化</p> <p>(5) 進路情報の収集・分析・研修と生徒保護者への情報提供の徹底</p> <p>3. カリキュラムの検討及びコースの再編</p> <p>(1) カリキュラムの検討</p> <p>(2) 総合コースの再編</p> <p>4. 中高大連携の推進</p> <p>(1) 中高一貫の高校カリキュラム、クラス編成の策定</p>	<p>① 中学校の海外〔シンガポール〕修学旅行検証</p> <p>② 一貫5年生の修学旅行先の検討および策定</p> <p>③ 高校修学旅行〔国内・韓国・シンガポール〕</p> <p>① 校内での交流会の実施</p> <p>② 韓国蔚山市への訪問（中学）</p> <p>① 英語授業の推進</p> <p>② 公開授業の実施</p> <p>③ 短期・長期留学制度の策定</p> <p>① 総合コース1・2年で実施</p> <p>② 学力向上プロジェクト委員会設置</p> <p>① 4月中に計画立案し5月から実施</p> <p>② 小論文指導者研修会の実施</p> <p>① 結果検証と実施計画案策定</p> <p>② 進路講話講師選定（卒業生を含む）</p> <p>③ 計画に則り実施</p> <p>① 4月から実施して学期毎に検証</p> <p>① 学年対象の進路講話の実施</p> <p>② 保護者対象進路講話の実施</p> <p>③ 就職希望者対象講話の実施</p> <p>④ 進路部会の活性化</p> <p>⑤ 進路委員会の活性化</p> <p>① 27年度以降の一貫1～3年の策定</p> <p>② ことば教育の導入</p> <p>① 現制度の検証と新編成案の策定</p> <p>① 一貫カリキュラム、クラス編成の検証</p> <p>② 4年後の到達度テスト導入対応の検討開始</p>

<p>(2) 中高大連携教育の推進による特色化・差別化の確立</p>	<p>① 中高大連携による出前講義の開催 ② 高大連携授業の実施 ③ 中高大連携による部活動の推進 ④ 内部進学者の入試について検討 ⑤ 中高職員のキャンパス見学会の復活 ⑥ 学部毎の卒業生講話や懇談会の実施 ⑦ 中高生の交流推進（例：学習指導）</p>
<p>5. 人間教育プログラムの再構築</p> <p>(1) 諸活動の総合的・計画的な年間計画の策定と実施の推進</p> <p>(2) 外部組織や人材の活用</p> <p>(3) 礼法教育の推進</p> <p>(4) 環境美化の推進</p>	<p>① 実施計画案に則って実施</p> <p>① 各部・各学年・各クラブ・各委員会等で講話・研修会を実施</p> <p>① 高校卒業までにマナー検定上級に全員合格 ② 挨拶の徹底</p> <p>① 清掃活動の徹底 ② 花壇の植栽・手入れ</p>
<p>6. 部活動の推進と進路保障</p> <p>(1) 部活動の実態把握と統廃合の推進</p> <p>(2) 志望進路の実現</p> <p>(3) 中体連・高体連大会で全国上位入賞を達成する</p>	<p>① 生徒会議で審議して統廃合を実施</p> <p>① 推薦入試・AO入試の活用推進 ② 部生徒・保護者への進路指導の徹底</p> <p>① 練習の質と量を確保 ② 優秀なスポーツ特待生勧誘の推進</p>
<p>7. ボランティア活動の推進</p> <p>(1) 活動計画に則った活動の推進</p> <p>(2) 全校生徒への活動の波及と啓蒙</p>	<p>① 年間計画の立案と活動の推進</p> <p>① 学校行事・長期休業期間等を活用した活動の推進</p>
<p>8. 学校評価制度の導入</p>	<p>① 内部評価委員、学校関係者評価委員による学校評価を実施</p>

(2) 学習意欲あふれる生徒の確保

重点施策	具体策
<p>1. 女子教育の長所・強みの広報活動の推進</p> <p>(1) 女子教育の長所、強みの広報の徹底</p>	<p>① 4月中に案を策定し5月以降に活動 ② 広報媒体に女子校特有の明るさと清潔感を盛り込む</p>

<p>2. 対外行事の充実</p> <p>(1) 実施内容の検証と再構築</p> <p>(2) 広報活動の強化</p> <p>(3) 記録保存の徹底</p> <p>3. 広報活動の推進</p> <p>(1) 広報活動の再構築</p> <p>(2) 担当職員配置による恒常的な訪問活動の実施</p> <p>(3) 広報担当者のスキルアップ</p> <p>4. 育友会との連携強化</p> <p>(1) 地区会の開催</p> <p>(2) 学園情報の提供と受験者情報の収集</p> <p>(3) 合同委員会の開催</p> <p>5. 同窓会・後援会との連携推進</p> <p>(1) 同窓会会員の掘り起こし支援と各地の支部総会への出席の推進</p> <p>(2) 学園情報の提供と受験者情報の収集</p>	<p>① 行事検討委員会での検証と見直し案の作成</p> <p>① より積極的な広報活動の推進</p> <p>① 責任者・保管場所・保存方法の固定化（DVD・USBメモリ・資料等）</p> <p>① 学園広報委員会との密接な連携推進</p> <p>② より効果的な広報手段の検討と実施</p> <p>③ 広報活動プロジェクト委員会設置</p> <p>① 小中学校・学習塾訪問活動の推進</p> <p>① 外部講師による研修会実施</p> <p>① 実施計画案の策定および実施</p> <p>② 育友会新役員への協力依頼</p> <p>③ 育友会旧役員との連携強化</p> <p>④ 参加者リストの作成</p> <p>① 学園ホームページ・広報誌・新聞・学校行事・地区会・育友会役員会等の活用</p> <p>② ホームカミングデイの活用</p> <p>① 育友会役員と校内委員との定例会議の開催</p> <p>① 過年度卒業生の情報提供</p> <p>② 各地の花桜会支部総会への出席</p> <p>① 花桜会総会・各支部総会・後援会総会・学校行事等の活用</p> <p>② ホームカミングデイの活用</p>
--	---

(3) 生徒支援改革

重点施策	具体策
<p>1. 特待生、奨学生制度、表彰制度の改革</p> <p>(1) 新制度の推進</p> <p>2. 進路相談、カウンセリングの充実</p> <p>(1) 生徒、保護者のカウンセリングの強化</p>	<p>① 新制度に則って実施</p> <p>① 担任・学年との連携推進</p> <p>② 25年度カウンセリング対象生徒の受診率 80%</p>

<p>(2) 学校外の組織、人的支援の活用</p> <p>(3) 不登校傾向生徒の保護者を対象とした定期的な学習会の開催</p> <p>(4) 進路関係情報の周知と相談の徹底</p>	<p>～90%を維持しつつ、更なる工夫と内容充実を図る</p> <p>① 年間計画に則って実施</p> <p>① 年間計画の策定</p> <p>② 私学特別支援相談員派遣事業、熊本時習館SSW派遣事業の継続活用</p> <p>③ 教育相談会実施</p> <p>① 年間計画を策定</p> <p>② 学年・担任・部活顧問との連携</p> <p>③ 情報収集・分析および情報提供の方策の検討</p> <p>④ 保護者会・学年懇談会・個人面談等での情報提供</p>
---	---

(4) 教育指導力向上のための支援

重点施策	具体策
<p>1. 指導力向上の為に組織的、計画的な研修を推進し研修内容の共有化と実践の督励</p> <p>(1) 職員研修の推進と研修内容の共有化</p> <p>(2) 研修後の実践の徹底</p> <p>(3) リーダーの養成</p>	<p>① 年間計画の立案</p> <p>② 年間計画に則った研修の実施</p> <p>③ 研修報告・研修会復講・研修内容資料配付の徹底</p> <p>① 実践報告の制度化と実践状況の把握と助言・提言</p> <p>① 外部主催リーダー研修会への派遣</p> <p>② 内部でのリーダー研修会（学年主任・特進主任会、教科主任会、若手育成研修、中堅教員育成研修）の実施と検証</p>

(5) 地域連携を視野に入れた指導力向上の研修の推進

重点施策	具体策
<p>1. 地域の諸活動の支援とボランティア活動の推進</p> <p>(1) 合同練習会開催の推進</p>	<p>① 剣道・バスケットボール・バレーボール・卓球・ソフトテニス・バドミントン部などによる外部中学・高校・団体との合同練習会での学び合いおよび指導助言</p>

(2) ボランティア活動の推進	② 尚綱杯ソフトテニス大会の開催 ① 各種ボランティア活動への派遣推進 ② 九品寺地区における中高生と住民との交流と地域への貢献についての実施案の策定と実施 ③ 九品寺校地周辺の清掃活動 ④ ペットボトルキャップ・プルトップ回収ボランティア
-----------------	--

4. 尚綱大学短期大学部附属幼稚園

(1) 教育内容の改革と尚綱らしさの迫及

重点施策	具体策
1. 特色ある幼稚園づくり (1) 豊かな自然環境を生かした教育 (2) 豊かな心をはぐくむ絵本教育 (3) 国際理解教育 (4) 環境教育 (5) 安全教育 2. 特別支援教育 (1) 特別支援教育	① 親と子の豊かな自然体験（クワガタ取り、ロープ遊び、穴掘り） ① 絵本読み聞かせ活動 ① 外国人を招き園児との触れ合い遊び ① 水の節約の指導 ① スクールバスの安全指導 ① ケース検討会議 ② クールダウンスペース作り

(2) 園児の確保

重点施策	具体策
1. 教育環境の整備 (1) バスコース検討 (2) 魅力ある自然環境づくり (3) 預かり保育増員の検討 (4) 給食の検討 2. 認定子ども園の検討 (1) 認定こども園の検討	① 菊陽町方面バスコース見直し検討 ① 環境の工夫と情報収集 ① 預かり保育室整備、担当職員確保 ① 保護者のニーズ調査 ① プロジェクト会議継続 ② 情報収集

(3) 保護者支援改革

重点施策	具体策
1. 子育て支援 (1) 親の学び講座 (2) 教育相談事業	① 保護者に対する講演会 ② 「おしゃべり広場」事業 ① スクールカウンセラー検討

(4) 指導力向上のための支援

重点施策	具体策
1. 研修の充実 (1) 園内研修・園外研修 (2) 実習指導	① 教育課程テーマ研修 ① 実習生研究保育の指導計画の検討

(5) 地域連携を視野に入れた指導力向上の研修の推進

重点施策	具体策
1. 地域連携活動 (1) 未就園児親子登園 (2) 小中高との連携 (3) 地域との連携	① 「おいでおいで」の会 ① 中高生による職場体験、幼小連携活動 ① 高齢者と「もちつき」「たこあげ会」